

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・課題研究	単位数	3	担当者	久保田・高木・秋山・古畑・保科・山下・横沢
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-----------------------

1. 教科書・副教材

デザイン実践(電機大出版局)、インテリア計画 (実教出版)、インテリアエレメント生産 (海文堂出版)、インテリア装備 (実教出版)、工業情報数理 (実教出版)、工業技術基礎 (実教出版)、インテリア製図 (実教出版)
--

2. 科目の目標

デザインに関する課題を設定し、課題の解決をすることができる能力の育成を目標とする。 問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度の育成を目標とする。

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①課題設定 各自で課題を探し決定する	53	
	5月	①計画立案		
	6月	①作品制作		
	7月	①作品制作		
	8月	①作品制作		
	9月	①作品制作 ②ワークショップについて		
後期	10月	①中間まとめ、発表及び作品制作 ②地域との交流	52	
	11月	①作品制作 ②地域との交流		
	12月	①作品制作 ②地域との交流		
	1月	①まとめ・発表		
	2月	①専門科展で発表（代表者）		
	3月			

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術との関わりを踏まえて理解している。	課題提出
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、独創的に解決策を探究し、創造的に解決する力を身に付けている。	課題設計・製作過程 作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『課題研究発表会』で発表する。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・実習（プロダクト）	単位数	4	担当者	高木・古畑・横沢
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1. 教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）、インテリア製図（実教出版）

2. 科目の目標

<p>ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 木材加工に関する発展的な技術を体験させる。 使用材料の性質を理解させ、機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底）</p>

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工	・部材名称と構造の確認 ・部品づくり	70	
	5月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工	・部材名称と構造の確認 ・部品づくり		
	6月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工，組立て	・部品づくり ・木地調整，組立て		
	7月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工，組立て	・部品づくり ・木地調整，組立て		
	8月 ①家具の製作（中・大型作品） ・木地調整，木地着色	・木地調整，木地着色		
	9月 ①家具の製作（小・中型作品） ・塗装，仕上げ	・目止め（中塗り），表面研削，仕上塗装 ガラス，建具，金具取り付け		
後期	10月 ①家具の製作（小型作品） ・設計	・作品の設計と製図	70	
	11月 ①家具の製作（小型作品） ・加工	・部材名称と構造の確認 ・部品づくり		
	12月 ①家具の製作（小型作品） ・組立て，木地調整，塗装	・組立て，木地調整，木地着色，塗装		
	1月 ①家具の製作（小型作品） ・塗装，仕上げ	・目止め（中塗り），表面研削，仕上塗装 ・ガラス，建具，金具取り付け		
	2月 ②まとめ，発表	・インテリア科生徒作品展示・即売会		

4. 評価の方法・観点

評価の観点	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	木材加工に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術との関わりを踏まえて理解している。	課題提出
思考・判断・表現	木材加工の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	木材加工に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・実習（デザイン）	単位数	4	担当者	保科・久保田
---	----	-------	-------------	-----	---	-----	--------

1. 教科書・副教材

デザイン実践（実教出版）

2. 科目の目標

造形活動の基礎的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の定着を目指す。 基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させる。 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
--

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①文化祭ポスターの制作 ②インテリア科 PR 用パンフレット制作	①ポスターの仕上げ ②分担決め・制作 ・調査・制作	70	
	5月	①パンフレット制作	①制作		
	6月	①パンフレット制作	①仕上げ ・データ完成と入稿		
	7月	①卒業制作	①卒業制作のテーマ決め。 ・制作・表現方法についての調査・検討		
	8月	①卒業制作構想発表	①題材とコンセプトの設定 ・マーケティング調査の実施。		
	9月	①卒業制作	①制作 ・計画的に制作を進める。		
後期	10月	①卒業制作・中間発表	①展示方法の検討と制作のまとめ・考察。	70	
	11月	①まとめ、発表準備	①パワーポイント・プレゼンボード制作		
	12月	①卒業制作発表会	①自己評価と相互評価		
	1月	①卒業制作展準備	①公式ポスター・フライヤー・DM 制作 ・V. I. C. I について。		
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	デザインの役割、実習の内容を理解し、基礎知識を活用することができ、作品に表現することができたか	課題提出
思考・判断・表現	画材を適切に活用することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・製図	単位数	2	担当者	山下・古畑
---	----	-------	-------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

インテリア製図（実教出版）

2. 科目の目標

日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。 製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。 レタリング技能検定やトレース技能検定に向けて知識と技術を習得させる。

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	①製図用具の使い方	35	
	5月	②透視図 ①透視図		
	6月	①室内外透視図		
	7月	①室内透視図		
	8月	①室内透視図まとめ ②自主設計		
	9月	①室内透視図まとめ ②自主設計		
後 期	10月	①各種コンテスト ②プロダクトデザイン	35	
	11月	①各種コンテスト ②プロダクトデザイン		
	12月	①まとめ		
	1月	②発表		
	2月			
3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解している。	課題提出
思考・判断・表現	制作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	課題設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組もうとしている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』にて発表する。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・工業情報数理解演習	単位数	2	担当者	久保田
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-----

1. 教科書・副教材

工業情報数理（実教出版）

2. 科目の目標

<p>課題や目標に応じて、情報手段を適切に活用する能力を育成する。 情報の様々な表現方法を習得し、情報を発信する実践的な態度を育成する。 望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。</p>

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 ※定期考査実施	①静止画像処理ソフトを活用した画像の加工 ②著作権と工業所有権の関連法規 ※学習内容の定着度を確認	35	静止画像処理実習
	5月	①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 ※定期考査実施	①静止画像処理ソフトを活用した画像の加工 ②著作権と工業所有権の関連法規 ※学習内容の定着度を確認		
	6月	・プレゼンテーション導入 (情報モジュール・ネット)	・プレゼンテーションソフトの活用方法 (情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達)		
	7月	・プレゼンテーション導入 (情報モジュール・ネット)	①・プレゼンテーションソフトを活用した情報発信の実習（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達）		
	8月	・プレゼンテーション導入 (情報モジュール・ネット)	①・プレゼンテーションソフトを活用した情報発信の実習（プレゼンテーションの実習をとおして、相互評価を体験させる）		
後期	9月	・プレゼンテーション導入 (情報モジュール・ネット)		35	情報モジュール・ネット
	10月	・プレゼンテーション実習 (情報モジュール・ネット)	①プレゼンテーションソフトを活用して情報発信の実習（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達）		
	11月	①動画作成実習 ↓			
	12月	①動画作成実習	①動画編集ソフトの使い方 インテリア科の紹介動画を分担して作成 (情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達)		
	1月	②まとめ、発表	①インテリア科の紹介動画を分担して作成（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達）		
	2月		②インテリア科生徒作品展示・即売会		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理解処理の理論を理解するとともに、関連する技術を理解している。	課題
思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	課題
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理解処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組もうとしている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。</p>
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・インテリアエレメント生産	単位数	1	担当者	高木
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

インテリアエレメント生産（海文堂出版）

2, 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・生産技術の能率化木材の基本的な性質について理解させる。 ・品質、安全、衛生管理について理解させる。 ・金属加工及び成形加工について理解させる。
--

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月 ①生産技術	①プログラミング ・NCのプログラム	18	生産技術 生産技術の向上化
	5月 ①生産技術の向上化	①プログラミング ・プログラミングと生産工程 ※学習内容の定着度を確認		
	6月 ①加工の能率化 ※定期考査実施	①生産技術 ・NC工作機の操作と作業能率の理解 ※学習内容の定着度を確認		加工の能率化
	7月 ①生産管理	①生産計画 ・工程管理		
	8月 ①品質管理	①ISOに準じた品質管理と標準化		
9月 ①安全・衛生管理 ②家具生産の工程 ※定期考査実施	①労働基準法に準じた安全衛生管理 ②ライン生産化と製作工程			
後 期	10月 ①金属材料の種類	①金属材料の種類と性質 ※学習内容の定着度を確認	17	生産管理 安全・衛生管理 家具生産の工程 金属材料の種類 金属製品と規格
	11月 ①金属製品と規格 ※定期考査実施	①金属製品の規格 ※学習内容の定着度を確認		
	12月 ①金属の加工の基礎	①加工の基礎 (切削, 鋳造, 溶接, 塑性, 測定器具)		金属の加工の基礎 成形加工法
	1月 ①成形加工法 ※定期考査実施	①成形加工の種類 ・一次加工と二次加工 ※学習内容の定着度を確認		
	2月			
3月				

4, 評価の方法・観点

評価の観点	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解している。	課題提出、定期考査
思考・判断・表現	インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	課題提出、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

実習や資格などに関連づけて学習する。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・デザイン実践	単位数	2	担当者	山下
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

デザイン実践（実教出版）

2, 科目の目標

形態や色彩を用いた意思伝達の基本的な知識を獲得し、目的をもったデザイン活動を計画・提案できる、工業人として望ましい美的感性や創造的感性を持った生徒を育成する。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	デザインの基礎 (生活用具のデザイン、伝えるデザイン、デザイナーに求められるもの)	・用と美、計画手順、意匠権の観点からデザイナーに求められるものを理解させ考察させる。	35	コンピュータ・グラフィックスの制作を通して、色や形を持つコミュニケーション能力を実際に認識・活用する学習をする。
	5月	デザインの基礎 (色彩とは、色彩研究、色彩の分類色)	・光と色の関係、目の構造を理解させる。 ・トーンの性格を理解させ、実際の活用法を演習。 ・カラーシステムの必要性を理解させ、実際の活用方法を演習させる。		
	6月	立体、マンセルのカラーシステム、色名、色の対比、感情、連想など)	・色の対比によって起こる目の錯覚や色の与える印象を効果的に活用した配色計画を理解させ、実習を通じ応用力を養わせる。		
	7月	プロダクトデザイン (生活とプロダクトデザイン、プロダクトデザインにおける機能と造形)	・様々なプロダクトデザインが使用者と使用環境との関係性から成り立っている事を理解させ、プロダクトデザイナーの立場を知る。		
	8月 9月				
後 期	10月	環境構成デザイン (都市の環境、計画と街並み、インテリアとは、インテリアの目的、インテリアの歴史、インテリアデザインの計画、空間の計画、パブリック空間の計画、建築とインテリア、住宅)	・インテリアへの人体寸法の応用、安全について学習させる。 ・建築物とインテリアの関係性を理解させながら、つくられる目的やインテリア、建築のもつ意味や本質、計画の進め方について理解させる。	35	A I、P S D、J P E G、P D F、E P S、G I F、B M P の一般企業やデザイン業界で使用頻度の高い保存形式に触れる。
	11月				
	12月	ビジュアルデザイン (ビジュアルコミュニケーションデザインとは、視覚伝達とその要素、構成要素とは、イラストレーション)	・視覚伝達効果の重要性を理解させ、イラストレーションや文字のデザインに取り組みせながら、D T P の基礎を学習させる。 ・より深くC G ソフトの機能を理解させ、効果的に活用できる技能を高めさせ。 ・各画像保存形式の特徴や解像度に対応する実習を通して深めさせ、用途に応じて適切な判断ができる能力を養わせる。		コンピュータ・グラフィックスの制作を通して、理論を実際に認識・活用する学習する。
	1月	グラフィックでデザインとは (コンピュータによるデザイン、広告デザイン、編集デザイン、映像デザイン)			
	2月 3月	写真・印刷 (デザインと写真、デザインと印刷)	写真による視覚伝達の重要性を理解させながら、印刷による表現の変化について学習させる。		

4, 評価の方法・観点

評価の観点	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	デザインについて社会や生活との関係を踏まえて理解している。	課題提出、定期考査
思考・判断・表現	デザインにより解決できる課題を発見し、構想を立てて解決する力を身に付けている。	課題提出、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	デザインによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・デザイン実践演習	単位数	2	担当者	久保田
---	----	-------	-------------	-----	---	-----	-----

1. 教科書・副教材

デザイン実践（実教出版）

2. 科目の目標

デザインの技術に関する基本的な知識と技術を習得させる。 実際に創造し応用する思考と能力を育てる。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	①デザインの基礎 ・デザインとは ・著作権法について	①デザインの基礎について ・著作権法について	35	
	5月	①高校生デザイン選手権	V. I. について		
	6月	①高校生デザイン選手権	①プレゼンテーション		
	7月	①公募展に向けた作品制作	希望進路に合わせ、公募展を選択する		
	8月	①公募展に向けた作品制作	希望進路に合わせ、公募展を選択する		
	9月	①公募展に向けた作品制作	①希望進路に合わせ、公募展を選択する。		
後 期	10月	①プロダクトデザイン ・3DCAD (Solid Works)	①工業デザインの製作プロセス ・3Dプリンターを用いたモックアップの作成。	35	
	11月	①プロダクトデザイン ・鋳造方法による材質置換	①作品制作 ・鋳造技法や木以外のクラフト素材 (金属やガラス) の性質を理解する		
	12月				
	1月	①まとめ、発表	①展示方法について検討。		
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	デザインについて社会や生活との関係を踏まえて理解している。	課題
思考・判断・表現	デザインにより解決できる課題を発見し、解決する力を身に付けることができたか。	課題
主体的に学習に取り組む態度	デザインによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、協働的に取り組もうとすることができたか。	出席日数・実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・工業情報数理	単位数	2	担当者	久保田・秋山
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	--------

1. 教科書・副教材

新情報技術基礎（実教出版）

2. 科目の目標

<p>課題や目標に応じて、情報手段を適切に活用する能力を育成する。</p> <p>情報の様々な表現方法を習得し、情報を発信する実践的な態度を育成する。</p> <p>望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。</p>

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	①1・2年次の復習 ②到達目標の確認	35	静止画像処理実習	
	5月	①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権			
	6月	①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権			
	7月	①プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット)		35	静止画像処理実習
	8月	①プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット)			
	9月	①プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット)			
後期	10月	①プレゼンテーション実習 (情報モラル・ネット)	35	情報モラル・ネット	
	11月	①3DCADの基本操作			
	12月	①3DCADの基本操作			
	1月	①まとめ、発表			
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに、関連する技術を理解している。	課題
思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	課題
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組もうとしている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。</p>

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・伝統工芸	単位数	2	担当者	横沢・古畑
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）、インテリア製図（実教出版）

2. 科目の目標

- ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。
- ・木材加工に関する伝統工芸的な技術を体験させる。
- ・使用材料の性質を理解させ、機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底）

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①伝統工芸作品の製作 ・設計	①伝統工芸作品の設計 ・作業と安全を確認	35	
	5月	②伝統工芸作品の製作 ・木取り, 素材加工	②素材の製作 ・設計寸法に沿って, 木取りと素材の加工		
	6月	③伝統工芸作品の製作 ・木地仕上げ ・塗装	③木地仕上げ, 重ね塗装		
	7月	④伝統工芸作品の製作	④重ね塗装		
	8月	①伝統工芸作品の製作 ②伝統工芸作品の製作	①重ね塗装 ②表面研削, 仕上げ		
	9月	③伝統工芸作品の製作	③木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。		
後 期	10月	④伝統工芸作品の製作	④木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。	35	
	11月	⑤伝統工芸作品の製作	⑤木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。		
	12月	①伝統工芸作品の製作	①仕上げ		
	1月 2月 3月	②まとめ, 発表			

4. 評価の方法・観点

評価の観点	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	伝統工芸について社会や生活との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術との関わりを踏まえて理解している。	課題提出
思考・判断・表現	伝統工芸の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として工業技術の進展と在来技術を対応させ解決する力を身に付けている。	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	伝統工芸に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。
- ・題材は漆の重ね塗り研ぎ出し、曲げ木細工工芸品へぎ板工芸品などを参考に講座を進める。
- ・実習（必修）の作品に、この講座の伝統工芸的要素を取り入れても良い。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・木材工芸	単位数	2	担当者	高木 横沢
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）、インテリア製図（実教出版）

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・木材加工に関する工芸的な技術を体験させる。 ・使用材料の性質を理解させ、機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底）

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①作品の設計	①小物題材の設計 ・作業と安全を確認 ・木取り	35	
	5月	②作品の加工	②素材の加工		
	6月	③作品表面のデザイン	③彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認		
	7月	①作品表面の彫刻	①彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認		
	8月	②作品表面の彫刻	②彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認		
後期	9月	③作品表面の彫刻	③彫刻図案（デザイン）の彫刻	35	
	10月	④作品表面の仕上げ（中塗り） ⑤レーザーラフト機による描画	④木地仕上げ、木地着色、塗装（中塗り） ⑤レーザー加工するデザインの計画		
	11月	⑥レーザーラフト機による描画	⑥レーザー加工による描画 ・仕上げは自由		
	12月	⑦作品表面の仕上げ	⑦上げ塗装		
	1月	①まとめ、発表	①インテリア科生徒作品展示・即売会		
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

評価の観点	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	木材加工に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術との関わりを踏まえて理解している。	課題提出
思考・判断・表現	木材加工の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	木材加工に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に協働的に取り組む態度を身に付けている。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・工業デザイン（普・イ）	単位数	2	担当者	保科
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

色彩検定3級公式テキスト（公益社団法人色彩検定協会）他

2. 科目の目標

- ・色彩に関する基礎的な知識や用語について理解させる。
- ・PCCSに基づいた配色調和に関する基礎的な理論について理解させる。
- ・実際に色彩を活用することができる実践力を育成する。

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①カラーシステム	①色の分類や、表色系の必要性について ・PCCSについて	35	<ul style="list-style-type: none"> ・光と色 ・色の表示
	5月	①カラーシステム	①色の分類や、表色系の必要性について ・PCCSについて		
	6月	①色名 ②配色調和の実習 ※定期考査実施	①色を表示するための言葉について ・JISの色名、慣用色名 ②形容詞を題材にした配色調和の実習 ※定期テストを実施し、知識の定着度を確認		
	7月	①光と色	①色の見える原理について ・科学的、生理学的な立場から理解させる。		
	8月	①色彩心理	・実験を多く取り入れて理解を促す。		
後 期	9月	①色彩心理（2） ②色彩調和 ※定期テスト実施	①色から受ける心理的な効果について ・色彩の感情や色から受けるイメージ ・傾向があることを統計学的な立場から理解させる。 ②色の対比や同化現象、面積効果について ・配色の基本的な考え方 ・色相やトーンを手がかりにした配色 ※定期テストを実施し、知識の定着度を確認	35	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩心理 ・色彩調和
	10月	①色彩調和（2）	①配色の基本的な考え方について ・明度や彩度を手がかりにした配色 ・配色の基本的用語		
	11月	①ファッション ②インテリア・環境 ※検定実施	①ファッションとカラーの関わりについて ②インテリアにおける色彩効果について ※文部科学省後援色彩検定実施		
	12月	①配色調和のまとめ	①配色調和のプレゼンテーション実習		
	1月 2月 3月	①配色調和のまとめ	①配色調和のプレゼンテーション実習		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	色彩、造形、デザインの関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	課題、定期考査、検定試験
思考・判断・表現	色彩、造形、デザインに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、解決する力を身に付けることができたか。	課題、定期考査、検定試験
主体的に学習に取り組む態度	造形・色彩について自ら学び、協働的に取り組もうとすることができたか。	授業に取り組む姿勢や意欲

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

身近な色彩、造形、デザインの関わりを踏まえて理解しながら、演習問題や過去問を活用し試験に備える。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	工業・CAD製図演習	単位数	2	担当者	高木 秋山
---	----	-------	------------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

工業情報数理（実教出版）、Jw_CAD6((株)エクснаレッジ)

2、科目の目標

<p>課題や目標に応じて情報手段を適切に活用することのできる能力を育成する。 基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させる。 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p>
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①製図の基礎知識の確認 ②到達目標の明確化	①ISO, JISの基本製図法の確認 (投影法) ・CAD図面の基本	35	
	5月	①CAD製図の導入	②到達目標を定める。 ①CAD製図のISO, JIS規格について		
	6月	①CADソフトの基本操作	①CADソフトの基本操作		
	7月	①CADソフトの活用	(グリッド, 端点, 交点, 図の表現方法) ①第三角法投影図及びその他の投影図法を理解。		
	8月	①3D部品の作成と基本登録	①部品のCAD化 ・三次元部品登録の作成方法を理解。		
	9月	①3D部品登録の活用 ②CAD製図への応用	①三次元登録部品の表現法について ②CAD製図と3D部品の表現方法について		
後期	10月	①3D部品の画像処理化 ※建築CAD検定3級	①LAN, WAN, インターネットの発展利用について ※建築CAD検定3級より成熟度確認	35	
	11月	①住宅CAD製図の導入	①コピ-製図により住宅のCAD製図 ・オリジナル住宅設計のプラン方法		
	12月	①住宅設計の基本 ②室内表現	①オリジナル住宅設計の平面図の完成。 ②インテリアの表現手法		
	1月	①CAD図面とプレゼンテーション ②発表会	①作成した住宅プランのプレゼンテーション (参加者の評価型プレゼンテーション)		
	2月				
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	情報機器を活用した設計製図について工業の各分野の製図を踏まえて理解するとともに関連する技術を身に付けることができたか。	・課題 ・検定試験
思考・判断・表現	工業製品に着目して、情報機器を活用した工業の各分野の設計製図に関する課題を見出すとともに解決する力が身に付いている。	・課題 ・検定試験
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野に関する情報機器を活用した設計製図について自ら学び、協働的に取り組むことができたか。	・授業に取り組む姿勢や意欲

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<p>授業での実習と解説を聞き、知識技術の理解を深める。量をこなすことが大切なので課題量を検討しながら行う。</p>
--